

文学部 ホームページ

文学部のさらに詳しい情報、最新のトピックスを知るには、「文学部ホームページ」をご確認ください。学部からのメッセージや研究できるテーマなど、学部の学びがわかるコンテンツが満載です。



関西大学 入学試験情報総合サイト Kan-Dai web 2023年4月リニューアル

オープンキャンパスなどのイベント情報や入試に関する最新情報など、受験生を応援するコンテンツが満載! 社会で活躍する卒業生インタビュー、学生インタビューなども随時更新しています。



関大 入試 検索 /クリック!



LINE 関西大学 入試センター × LINE公式アカウント



Instagram 関西大学 入試センター 公式Instagram



Twitter 関西大学 入試広報 公式Twitter



YouTube 関西大学 入試センター 公式YouTube



大阪(大阪梅田)からのアクセス

阪急電鉄「大阪梅田」駅から、「北千里」行で「関大前」駅下車(この間約20分)、すぐ。または「京都河原町」行の場合「淡路」駅下車、「北千里」行に乗り換えて「関大前」駅下車。

京都(京都河原町)からのアクセス

阪急電鉄「大阪梅田」行で「淡路」駅下車、「北千里」行に乗り換えて「関大前」駅下車、すぐ。

Osaka Metro利用のアクセス

Osaka Metro堺筋線(阪急電鉄に相互乗り入れ)が阪急電鉄「淡路」駅を経て「関大前」駅に直通しています。

新幹線「新大阪」駅からのアクセス

JR「新大阪」駅からOsaka Metro御堂筋線「なかもず(方面)」行で「西中島南方」駅下車、阪急電鉄に乗り換え「南方(みなみかた)」駅から「淡路」駅を経て「関大前」駅下車(この間約30分)、すぐ。

大阪国際(伊丹)空港からのアクセス

大阪モノレール「大阪空港」駅から「門真市(かどまし)」行で「山田」駅下車、阪急電鉄に乗り換え「関大前」駅下車(この間約30分)、すぐ。

文学部

Faculty of Letters

総合人文学科

英米文学英語学専修

英米文化専修

国語国文学専修

哲学倫理学専修

比較宗教学専修

芸術学美術史専修

ヨーロッパ文化専修

日本史・文化遺産学専修

世界史専修

地理学・地域環境学専修

教育文化専修

初等教育学専修

心理学専修

映像文化専修

文化共生学専修

アジア文化専修

既存の枠を超えて、じっくり選んで、しっかり学ぶ。 16専修による学びの広がりのもと、人間を、文化を豊かに学ぶ。

関西大学文学部では、言語と文学、思想と文化、歴史と地理、教育と心理といった多様な新しい時代にふさわしい人間像の探究をめざしています。文学部では、学部一括入学入学後の1年間で、16の多彩な専修から学びたい分野をじっくり選び、2年次から希望の専修での学びを深めていきます。

な観点から、
を実施。



関西大学文学部の特徴

01 多様な人文学のジャンルを体系化した16専修。

入学後に1年間かけて、じっくりと自己の方向性を見極め、16の多彩な専修から学びたい分野を選択。2年次から専修での学びを深めていきます。分属後も専修を横断して授業を履修し、幅広い知識を身に付けることができます。

02 幅広い言語や文化に対応する豊富な教員とカリキュラム。

英語圏、ヨーロッパ、アジアなどさまざまな国の文化に対する理解を深めるため、英語をはじめとした7言語に加えて、学部独自でギリシア語、ラテン語、西アジアの言語(アラビア語、ペルシア語、トルコ語)、サンスクリット語、古代エジプト語の授業を提供。

03 目標とする進路に応じた免許・資格の取得がめざせる。

教員、学芸員、司書、司書教諭、社会教育主事といった免許・資格の取得が可能。

関西大学文学部をめざす皆さんへ

あなたの可能性を開く文学部



文学部長
多賀太 教授

文学部で何を学び、将来に活かしていくのか、これはあなた一人ひとりの選択と取り組みにかかっています。関西大学の文学部は、多彩な16の専修を設けています。この中にはきっとあなたが興味を持ち継続して学ぶことができる分野があるはずです。文学部では、1年次生の時に色々な分野を学んでから、自分の専修を選ぶことになります。研究分野は日本・アジア・欧米と世界各地に及び、多様な言語を学ぶこともできます。教職・学芸員・図書館司書など各種資格も取得できます。まさにあなた方の知への探究心が試されます。この4年間で、あなたの人生の可能性を広げていってください。

Contents

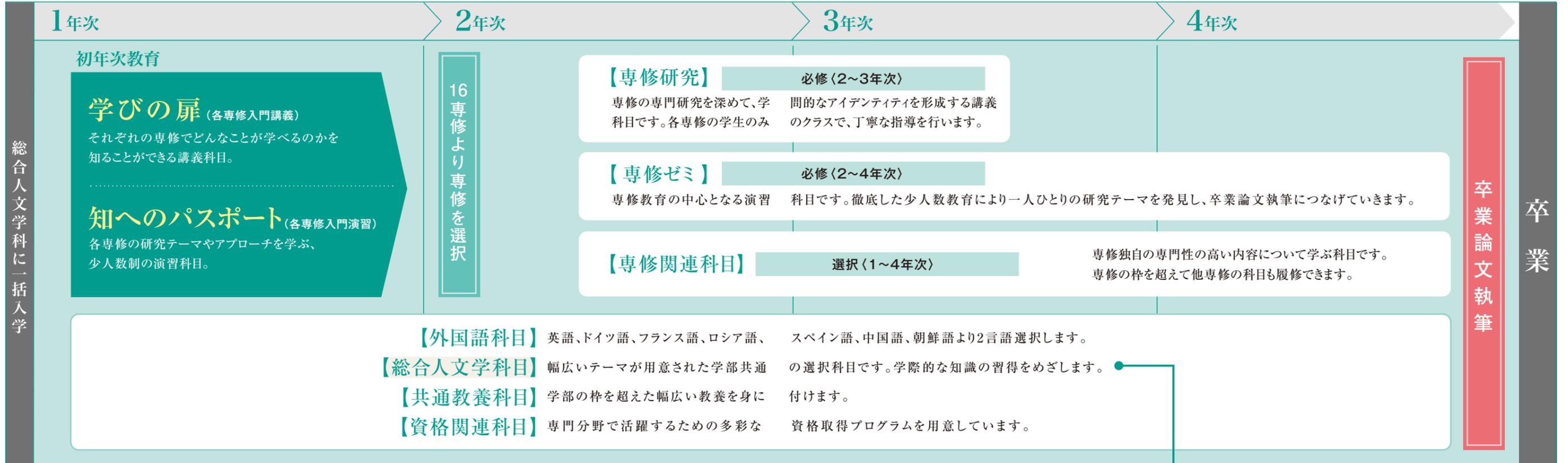
カリキュラム(4年間の流れ)	03	教育文化専修	10
英米文学英語学専修	05	初等教育学専修	10
英米文化専修	05	心理学専修	11
国語国文学専修	06	映像文化専修	11
哲学倫理学専修	06	文化共生学専修	12
比較宗教学専修	07	アジア文化専修	12
芸術学美術史専修	07	キャリアデザイン	13
ヨーロッパ文化専修	08	免許・資格	13
日本史・文化遺産学専修	08	卒業生インタビュー	13
世界史専修	09	就職率・就職先	14
地理学・地域環境学専修	09	大学院への進学	14

カリキュラム

より広く、より深く、一人ひとりの個性に合わせた ハンドメイドのカリキュラム設計

文学部では、1年次に入門的な専門教育科目を通して各専修の学びに触れ、それぞれの専門分野を深く学ぶことはもちろん、専修をまたがって授

れ、自分自身の興味・関心を見極めてから、専修を選択することが可能です。一学科多専修制のメリットを活かして、各専修に所属されて業を履修し幅広い知識を身に付けることができます。また、複数の免許・資格の取得にもチャレンジしやすい環境が整っています。



▼ 1年次の学び

Q1 なぜ文学部を選んだ?

A 高校で世界史を好きになり、大学では教科書に出てこないような一般市民の文化や風習について詳しく知りたいと思いました。関西大学文学部なら歴史だけでなく人文学を幅広く学べると知って志望しました。

Q2 どんなことに興味がある?

A 近代フランス文学を専門に学んでいます。例えば1870年に発表されたジュール・ヴェルヌの『海底二万里』は、未来的な技術の結晶として潜水艦を描いていて、当時の文化や人々の意識をうかがい知ることができます。

Q3 専修の選び方は?

A 1年次にさまざまな専修の入門講義を受講して、芸術、歴史、文学に興味をもちました。その上で、ヨーロッパの文化と文学を学べるヨーロッパ文化専修を選択。今後はフランス文学を思う存分掘り下げて学ぼうと思います。

▼ 4年次の学び

Q1 どんなことに興味がある?

A K-POPや韓国ドラマをもっと理解したいという思いを入りに、韓国の文化や歴史、言語を学んできました。現在は、韓国と日本の交流がもたらす、文化や言語における相互作用について研究しています。

Q2 学んできた内容は?

A 1年次はさまざまな授業を通して視野を広げ、2年次からはアジア文化を深く学びました。東南アジアや中国の文化についても学びつつ、半年間の韓国留学を経験。知識を広げながら、自ら問いを立て、解明する楽しさを感じています。

Q3 卒業論文執筆への意気込みは?

A 読んでおもしろい卒業論文になるよう執筆中です。テーマは昔話「桃太郎」の元になったと言われる、岡山の鬼伝説。鬼とされていた百済の王子と吉備津彦命の戦いの伝説から、日朝の交流の歴史に迫りたいと思います。

【総合人文学科目】について

必ず履修することになっている「知のナビゲーター」(1年次導入演習)をはじめ、所属専修にかかわらず、文学部生が共通して身に付けるべき知識やスキルを学ぶ科目です。文学部生としての教養を学ぶ科目群、学際的視点を身に付ける科目群、情報社会で求められるスキルを体得する科目群から構成されています。

《日本語教師養成講座》

文学部の学びを活かせる職業として日本語教師があります。近年、日本語に関心を持つ外国人は確実に増加していますが、外国人への日本語教育は、日本人であれば誰でもできるものではありません。文学部では2013年度から日本語教師養成講座を開設しており、言語学研究、日本語学などの言語分野科目や、日本語教授法、日本語教育方法論などの教育分野科目といった充実した科目群から構成されています。この講座を受講して、日本語教育能力検定試験(日本国際教育支援協会主催)の合格をめざします。

《Intensive English Program》

このプログラムは、中・上級者向けのオールラウンド・コミュニケーションやアカデミック・ライティングに特化したクラス、総合的に4技能を伸ばしたい人や留学準備をしている人のためのクラス、TOEIC®TestsやTOEFL®といった検定試験でのスコアアップをめざすクラスなど、今の時代に必要とされる英語のスキルをそれぞれの目的に合わせて積み上げていけるようなプログラムになっています。

※2020~2022年度はコロナウイルスの影響により通常の実績と異なるため、参考に2019年度実績を掲載しています。

■文学部生の留学実績*

年度	人数(名)
2022	128(548)
2019	170(1,190)

()の数字は全学部の合計人数



ヨーロッパ文化専修
渡辺 亮太 2年次生



アジア文化専修
長井 杏美 4年次生

※学生の年次は取材時のものです。

上記のプログラム及び講座は、文学部のどの専修に所属していても、受講することができます。

専修紹介

英米文学英語学 専修

現代社会に即した英語運用能力を高める。
英語圏の豊かな感性と教養を磨く。



専修の内容

本専修では英語圏の言語と文学を総合的かつ専門的に学びます。英米文学領域では、物語・小説・演劇・詩文学研究、文学理論、翻訳学に加え、ジェンダー・エスニシティ・家族と文学、といった文化的背景研究、映画研究などが挙げられます。英語学領域では、言語と思考、言語と文化、日英語対照研究、音声学・音韻論、メタファー論、英語史、認知言語学、異文化間コミュニケーション論などが挙げられます。一方、専門研究を行う大前提として、学生各自が英語運用能力を高めることが非常に重要であり、ネイティブ教員による英語運用能力強化科目群(Intensive English Program)のカリキュラムを充実させるとともに、各年次毎にTOEIC®L&Rの目標値を設けて個々の学生の英語力向上を推進しています。

先輩からのメッセージ

英語や英米文学を、英語を使って掘り下げて
学べる点が魅力です。

藤森 萌花 3年次生

私は入学当初から言語に興味があり、専修では英語の音声的な側面、構文、動詞の分類などについて、高校生の頃には全く知らなかった理論や仮説を学んできました。単に構文を暗記するのではなく、この場合になぜこの単語を使うのか、または使われないのかと考えるのが英語学の学びです。英語がどのような法則で成り立っているのか、自分自身の感覚で理解し、予測を立てながら考える過程が面白いと感じています。学ぶ中でたくさんの英文に触れるため、英語の運用能力が高まり、英語の論文もスムーズに読めるようになりました。この専修のテーマは「英語」そのものであり、先生方の多くが文学作品、英語学に実際の英語を通して触れることを大切にしていると感じます。英語が好きで、オリジナルの英米文学を味わいたい人にとっては、とても居心地の良い場所だと思います。



専任スタッフ

- ▶秋元元紀 教授 現代アメリカ文学、映画研究
- ▶岩田彩志 教授 英語学、語彙意味論、構文理論
- ▶高橋美帆 教授 英語圏の詩文学と演劇研究、比較文学
- ▶鍋島弘治朗 教授 言語学、認知言語学、メタファー
- ▶干井洋一 教授 イギリス小説、短編小説
- ▶ルチャーナ・カルディ 准教授 英日比較文学、アジア系アメリカ文学
- ▶熊谷学而 准教授 音声学・音韻論
- ▶リチャード・ドノバン 准教授 文学翻訳学、英米文学
- ▶野々宮鮎美 准教授 英語学、英語史、語用論

英米文化 専修

英語圏の文化を学際的・横断的に研究するとともに、
実用的な英語運用能力を高める。



専修の内容

英米文化専修では、アメリカ、イギリスを中心とする英語圏の文化を幅広い視野で学ぶことができます。ジェンダー論、環境文化論、表象文化論など英米文化研究の基礎を学ぶ英米文化専修研究のほか、文化研究の方法論や比較文化論、世界各地に広がる英語圏の文化の個別的事例についても幅広く学びます。同時に、実用的な英語力を段階的に身につける科目も用意しています。また、外国人の専任教員がスタッフの半数を占めるという特徴を生かし、日本にいながら専門科目を英語で学ぶことができるように、英語中心の教育環境を提供しています。英米文化専修が重視するのは、単なる知識の暗記や習得ではなく、クリティカルな思考法や発信型スキルです。そのため、学生の皆さんにはディスカッションやプレゼンテーションに積極的に参加することが求められます。このような教育環境のもと、多様な科目を組み合わせることで、さまざまな角度から英米文化について学ぶことができます。

先輩からのメッセージ

世界で起きている問題について真剣に学び、
視野が広がりました。

今川 里桜 3年次生

日本の社会に強い影響を与えている英米圏の文化に興味があると同時に、日本の文化が英米圏でどのように受け入れられているのかという点に関心があり、この専修に進みました。ゼミでは主にジェンダーについて学んでいます。知れば知るほど、社会のあらゆることはジェンダーの視点から捉えることができるとわかります。社会で当たり前だとされている価値観を改めて捉え、言語化していくことは難しいですが、とても楽しい作業です。ジェンダーに関わるだけでなく、あらゆるマイノリティの人々への眼差しをもつようになり、見える世界が広がりました。この専修には英米圏だけでなく、フードロスや貧困など世界で起きている問題に対する感覚が高い学生が多いので、「意識が高い」と茶化されることなく、興味のある問題について真剣に考えることができると感じています。



専任スタッフ

- ▶板倉敏一郎 教授 現代イギリス小説、イギリス文化
- ▶ジェイムズ・カーワン 教授 美学、思想史
- ▶小林剛 教授 アメリカ文化研究、アメリカ美術史
- ▶マーク・メリ 教授 環境哲学、環境文化論
- ▶ラファエル・ロンペール 教授 黒人文化研究、映画研究
- ▶井谷聡子 准教授 身体文化、ジェンダー・セクシュアリティ研究

国語国文学 専修

日本語という“ことば”とともに
日本文学の“こころ”を探求する。



専修の内容

私たちはことばを使ってものごとを考えます。その思考は文学や文化として現れ、今に生きています。国語国文学専修では、日本の文学・文化・言語の多様な側面から、日本人の精神や日本文化の有り様について考えます。国文学と国語学の2つのコースに分かれ、国文学コースは古代から現代に至る、時代ごとの文学作品や文学者、国語学コースは日本語の音韻・表記・語彙・文法などを対象に学び、研究します。また、日本語教育関係の科目を開講し、日本語教師養成講座の修了に向けて支援しています。国語国文学専修には、多様な研究分野を持つ専任教員が在籍しており、さまざまな時代・地域の、幅広い文学・文化・言語に対応しています。卒業論文まで、みなさんの学びをサポートしていきます。

先輩からのメッセージ

細部に着目して作者の意図を分析し、作品全体のテーマを考えます。

山下 紗也加 3年次生

もともと国語が好きだったこと、図書館が充実していて作品研究を行う環境が整っていることから、関西大学文学部に進みました。私が所属する国文学コースでは、文学作品を読んで各表現に込められた意味や効果を分析します。このテキスト分析や時代背景をもとに、作品のテーマを考えることが作品研究となります。同じ作品を読んでも人によって考えるテーマが異なるので、専修のクラスメイトと考えを比較しながら理解を深めていきます。一つ一つの表現に着目すると、一読しただけでは分からなかった作者の意図に必ず気付くことができます。文豪たちが残した答えのない問いと向きあい、自分で答えを生み出せるところに、これまでの読書体験とは全く異なる楽しさを実感しています。以前は特定の作家にしか興味がありませんでしたが、さまざまな作品の面白さに気付くことができました。



専任スタッフ

- ▶村田右富実 教授(国文学) 上代文学～万葉集の研究～
- ▶松本大 准教授(国文学) 中古文学～王朝物語と和歌の研究～
- ▶岸本理恵 教授(国文学) 中古文学～和歌文学の研究～
- ▶大島薫 教授(国文学) 中古文学～中世文学ならびに日本文化論の研究～
- ▶山本卓 教授(国文学) 近世文学～近世小説の研究～
- ▶関肇 教授(国文学) 近代文学～現代文学の研究～
- ▶増田周子 教授(国文学) 近代文学～現代文学の研究～
- ▶乾善彦 教授(国語学) 国語学～日本語史の研究～
- ▶日高水穂 教授(国語学) 国語学～現代日本語・方言の研究～
- ▶森勇太 教授(国語学) 国語学～近代語・敬語史研究～

哲学倫理学 専修

人間と世界を根底から問い直す。
認識、存在、言語、生命、正義、倫理…とは？



専修の内容

哲学の語源はギリシア語のphilosophia。「知の探求」を意味します。知を求め続けるとは、自分が知者だとうぬぼれないこと。ですから、哲学はいつでも自分自身を、世界をあらためて問い直す営みにほかなりません。哲学倫理学専修は、自分の問題を発見し、それに自分なりの答えを出そうとする人々を応援するトレーニングの場です。例えば、ギリシアに始まる西洋の倫理思想を手がかりにして、現代の環境問題や医療・生命に関わる問題、ネット社会の在り方といった問題を、テーマとして取り上げます。このように、新しい問題を考える手がかりは、昔から人々が考えてきたことの中に潜んでいます。これまでの哲学・倫理学の考えと対話を重ねつつ、自分自身の考えたいテーマを開拓し、その考察を通じて世界の見方、自分の在り方が変わっていくのを楽しみ場、それが哲学倫理学専修です。

先輩からのメッセージ

興味のあるテーマを自由に追究し、
対話を通して考えを深めることができます。

齊脇 真優 3年次生

元々考えることが好きで、自分と異なる考え方に触れることにも興味がありました。そこで哲学や倫理学を専門に学ぶ人たちとじっくり対話してみたいと思い、この専修に進みました。専修の授業は対話式で進められるものが多く、それぞれが自分の興味をもったテーマについて発表します。私自身は「傾聴」をテーマに研究を進めています。相手を受容して寄り添うことで、「私」と「あなた」の間だけに生まれるコミュニケーションがあるはずだと考えているので、それを論理的に掘り下げるつもりです。専修には疑問を抱いたことを追究することをいとわない人が集まっていて、周りの考えを聞いて自分の考えに取り入れられたり、相手に自分の意見を伝えたりと、議論の中で考えがより明確になるのを実感できます。興味や考え方の幅を広げたい人にはとても魅力的な環境だと思います。



専修紹介

比較宗教学 専修

「宗教オンチ」な社会を脱却するための、グローバル時代に必須の「知」と「技」。



専修の内容

「無宗教」を自認しながら初詣や墓参りは欠かさないというひとがたくさんいます。アニメやゲームなどのサブカルチャーにも、神話や宗教のモチーフがたくさん詰まっています。比較宗教学専修での学びは、そのような身近な日常から出発します。

文献やインターネットを用いて「宗教」をめぐる多様な「知」に触れ、フィールドワークによってひとと関わるための「技」を磨きます。大事なことは、宗教に対してさまざまなスタンスをもつ教員や学生たちが、互いの立場を尊重しながら、最新の情報をシェアし合い、創造的に議論することです。

現代社会の我々は、今かつてないほど多くの地域と深く接する機会をもち、教育現場や観光、飲食など、多くの業界で宗教文化にまつわる「知」と「技」がますます重視されています。この専修では、外付けの知識の詰め込みではなく、地に足のついた体験的学習を重視し、皆さん自身のもつ優れた感性を開花させることをめざします。

専任スタッフ

- ▶ 酒井真道 教授 仏教・インドの哲学、古文書学、比較思想
- ▶ 水野友晴 教授 日本の宗教哲学、京都学派、西田幾多郎・鈴木大拙
- ▶ 宮本要太郎 教授 現代日本の宗教、宗教の社会貢献、聖者伝
- ▶ 小杉麻李亜 准教授 フィールドワーク、ゲームと神話、イスラーム

【宗教文化士資格制度について】

宗教文化教育推進センター (<http://www.cerc.jp>) が認定する資格です。宗教学関連科目16単位を修得した学生に受験資格があり、試験に合格すると取得できます。既に関西大学からは20名ほどの合格者を輩出しています。日本および世界の諸宗教の知識があることを認定する資格で、海外勤務、教員、公務員、観光業界などの分野で役立つ資格です。この資格制度を活用し、これらの分野で活躍する卒業生が増えてきています。

先輩からのメッセージ

その人にとっての正しさと常識に深く根ざすのが宗教だと感じます。

松井 里歩 3年次生

1年次に受けた仏教学の講義に興味を抱き、もっと学びたいという思いから専修を選びました。学びを進める中で、宗教とはただの信仰ではなく、世界に対する物の見方なのだと思えるようになりました。例えば死後の価値観にしても、キリスト教では最後の審判が行われるため、かつては体の形を保持できる土葬が主流でした。一方、仏教では輪廻転生という考えから、肉体と魂の関係を断ち切れるように火葬が主流です。信仰する宗教が違えば、その人にとっての正しさと常識も異なるかと考えると、宗教を異文化理解のための要素として捉える前に、その宗教を信じる人の常識ごと受け入れる必要があるとも感じます。宗教は決して特殊な物ではなく、実は身の周りにあふれていて、それを可視化できるようにするのが、この比較宗教学専修だと思います。



ヨーロッパ文化 専修

歴史あるヨーロッパの豊かな文化を学び、幅広い知識とみずみずしい感性を身につける。



専修の内容

ヨーロッパ文化専修は、ドイツ・フランスを中心とするヨーロッパの豊かな文化が学べる専修であり、ドイツ言語文化コースとフランス言語文化コースを設けています。ヨーロッパという土地には、汲めども尽きぬ魅力があります。ところが多くの日本人にとってヨーロッパとは、一度は訪れてみたいがよくは知らない場所ではないでしょうか。本専修では、そんな憧れだけどもぼんやりしているヨーロッパのもつ面白さを、より明確に、詳細に、精密に理解することをめざします。具体的には、まずヨーロッパの言語・文学・文化の基礎知識を、バランス良く、幅広く学びます。そして少人数ゼミで仲間たちと切磋琢磨しながら自らの研究テーマを深く追究し、4年次生での卒業論文作成へとつなげていきます。本専修はまた、独仏語の運用能力向上のため、ネイティブ教員による授業を数多く設け、さまざまな留学プログラムも推奨しています。独検・仏検といった資格取得も強力に支援します。日本語・英語とは異なる言語文化について自らの思考を鍛えることは、みなさんの批判的な知性を養い、柔らかな感性を磨くことになるでしょう。

専任スタッフ

- ▶ 大久保朝憲 教授 フランス語学、言語学
- ▶ 工藤康弘 教授 ドイツ語の歴史、英語とドイツ語の比較
- ▶ 佐藤裕子 教授 現代ドイツ社会・文化、アイデンティティ、社会文化史
- ▶ 塚島真実 准教授 近現代フランス文学
- ▶ 友谷知己 教授 古典主義文学、フランス演劇
- ▶ リコ・ヨコヤマ・アドリアナ 教授 談話分析、日仏比較文化論
- ▶ ローベルト・F・ヴィットカンブ 教授 比較文化、比較文学、ドイツ事情

先輩からのメッセージ

仲間と協力し合いながら、ヨーロッパの言語、文化、文学を楽しく学べます。

市原 誠志郎 2年次生

高校生の時にドイツ留学を経験し、大学でもドイツ語の勉強を続けたいと思って進学しました。しかし専修の授業を受ける中で、ドイツの文化や文学と言語をつなげて学ぶ魅力を知り、現在はドイツ文学について卒業論文を書こうと考えています。特に興味をもっているのは、『ティル・オイレンシュピーゲルの愉快なはずら』という民衆本。『とんち』を使って人助けをしたというこの人物は、日本でいう「一休さん」のような存在かもしれません。この民衆本に出てくる、ドイツ語ならではの比喩や多義的な言葉遊びを日本語でどう解釈するか、これから掘り下げていくつもりです。英語以外の外国語を大学から学び始めるという人も多いと思いますが、比較的少人数の専修なので、気心が通じ合う仲間と協力し合えるし、先生が分かりやすく教えてくれるので、安心して学ぶことができます。



芸術学美術史 専修

実際の作品鑑賞やフィールドワークも実施しながら、芸術と美を理論的、実証的に考察する。



専修の内容

芸術学美術史専修では、人間の芸術活動全般を考える《芸術学》と、美術作品への歴史的アプローチを行う《美術史学》とを2つの柱として、古今東西のあらゆる芸術上の諸問題を扱います。《芸術学》では、古代から現代に至る表現活動の本質と変容とを、演劇・映画・音楽・アニメーションなどの上演芸術や美術作品などを通して幅広く考察します。《美術史学》では、西洋および日本・東洋の絵画・彫刻・工芸・デザイン・建築・マンガなどを対象として、芸術制作の意味、作品を「見ること」の意味を、歴史的、哲学的に考察します。展覧会や社寺での作品鑑賞、総合図書館所蔵の大坂画壇関係のコレクションや美術標本を用いた授業も行います。また多くの先輩が、美術館、博物館、画廊、デザイン関係、ファッション関係の企業などで活躍しています。

先輩からのメッセージ

絵画や仏像が劣化しないように守ることも、芸術にとって重要です。

對馬 萌 2年次生

絵画、舞台、建築など幅広い表現に触れる中で、私は仏像に関心をもつようになりました。例えば木彫りの仏像は木材から立体的な像を彫り出すのですが、それが人々の信仰の対象となり、時を超えて受け継がれている点に面白さを感じます。授業で知識を学ぶだけでなく、芸術や美術作品の本物を体験することもこの専修の特徴で、先日は平安時代の仏像をめぐる現地調査に参加しました。仏像は誰かが手をかけなければ、いずれは朽ちて劣化してしまいます。私自身が芸術作品を創り出すことはできませんが、こうした歴史的な芸術作品を保存、修復することに関わっていければと思うようになりました。コロナ禍をはじめ、社会が危機的な状況になった時に、芸術がすぐ何かの役に立つことはないでしょう。だからこそ、誰かが守り、次代に引き継ぐことが大切だと考えています。



日本史・文化遺産学 専修

日本史学と文化遺産学の視点から、人類の過去・現在・未来を考える。



専修の内容

日本史・文化遺産学専修は、日本の政治・経済・社会・思想・宗教および文化遺産などの多様なテーマを、主として歴史という時間軸に沿って、幅広い視点から総合的に調査研究します。この専修に進んだ学生は、日本史学と文化遺産学のいずれかのコースを選び、自由に指導教員と研究テーマを定めて学習します。日本史学コースには、古代史・中世史・近世史・近現代史など主に文献史料を扱う分野と、考古学・民俗学など主にヒト・モノ・コトや祭りなどを調査する分野が用意されています。文化遺産学コースでは、日本を中心とする文化遺産をはじめ、地域に残る有形無形の文化財について学ぶことができます。関西大学博物館や飛鳥のセミナーハウスなどを活用したフィールドワークも実施し、多種・多様な興味・関心に応えます。

専任スタッフ

- ▶ 西本昌弘 教授 日本古代史、政治社会史
- ▶ 原田正俊 教授 日本中世史、仏教史
- ▶ 小倉宗 教授 日本近世史、政治史
- ▶ 米田文孝 教授 日本・南アジア考古学、博物館学
- ▶ 黒田一充 教授 日本民俗学、祭り・生活文化
- ▶ 井上主税 教授 文化遺産学、博物館学
- ▶ 高久智広 教授 文化遺産学、博物館学
- ▶ 官田光史 准教授 日本近現代史、政治史

先輩からのメッセージ

日本のあらゆる時代の歴史を学べる上に、実際の史資料に触れられる環境です。

松岡 清乃 3年次生

この専修には考古学から近現代史、民俗学、文化遺産学など幅広い分野の教員がいっぱいなので、自分が興味をもっている時代について学ぶことができます。私は考古学のゼミに所属して、古墳や生産遺跡から出土する玉類(勾玉など)について研究中。出土品からは身分や階級を問わず、その時代の人々全般的な生活が読み取れる点が面白いと感じます。また、遺跡・寺社・博物館などにアクセスしやすい立地なので、座学だけではなく実際の史資料に触れることのできる点も大きな魅力です。入学当初は学芸員を志望していたのですが、私が高校時代に教わった先生のように、歴史の面白さを子どもたちに伝えたいと思い、現在は高等学校の教員を志望しています。最近、講義を受けている際に「今の話は高校の授業でも取り入れられそうだな」と考えながら受講することが多くなりました。



専修紹介

世界史 専修

世界的な視点に立って人類の過去・現在・未来を考える。



専修の内容

世界史専修では、いまに残された史料を手がかりにして、人類の過去・現在・未来を考えます。近年、グローバル化の進展によって、環境破壊、民族紛争、感染症の流行といった人類共通の課題が深刻さを増しています。世界史を学ぶことで、この複雑化した世界の成り立ちを理解し、私たちの将来を展望する視野を養うことができます。この専修で扱われるテーマは、時代では古代から現代まで、地域ではアジアからヨーロッパにかけてのユーラシア各地・エジプト・アメリカ・オセアニアなど、分野も文化・政治・経済・社会の広範囲におよび、きわめて多様です。学生のみなさんは、幅広い研究分野をもつ教員スタッフのもとで、世界史を総合的・多角的に学びつつ、自らの興味・関心に応じて探究を深めることができます。世界史の扉を開けてみませんか。

先輩からのメッセージ

興味をもったテーマなら、何でもつなげて学べるのが世界史専修の魅力です。

笠置 未緒 2年次生

1年次に受講した講義「学びの扉」で、中国の妖怪からジャンヌ・ダルクまで幅広いテーマを学べる魅力に触れ、世界史専修に進みました。中学、高校で学んできた歴史の授業では、過去の出来事を間違いない物として扱われていましたが、大学では一般的な歴史を定説として捉えることはあっても、確定した事実としては受け取りません。歴史学者の考え方や時代の変化を踏まえ、さまざまな視点から自分自身で考えることが重要であり、そこに面白さを感じます。また自分の興味、関心を、歴史という観点から自由に追究できることもこの専修の大きな魅力です。私は第二外国語でドイツ語を選択したこともあって、ドイツの民話・神話や、キリスト教がゲルマン民族に与えた影響など、文化史を中心に、自分の興味を起点に研究をしていきたいと思っています。



専任スタッフ

- ▶吹田浩 教授 西洋古代史、古代エジプト史
- ▶中村仁志 教授 西洋近代史、ロシア史
- ▶森部豊 教授 中国古代・中世史、東西文化交流史
- ▶池尻陽子 准教授 中国近世・近代史、内陸アジア史
- ▶嶋中博章 准教授 西洋近世・近代史、フランス史
- ▶橋爪烈 准教授 西アジア史、アラブ・イスラーム史
- ▶森本慶太 准教授 西洋近現代史、中央ヨーロッパ史

教育文化 専修

「教育」「文化」「情報」をキーワードに、現代の知識基盤社会における生涯にわたる人間形成を総合的に理解する。



専修の内容

教育文化専修では、私たちが生まれてから死を迎えるまで、社会のあらゆる場所で行われる「教え、学ぶ」営みを広い意味での教育としてとらえます。学校教育に限らず、家庭教育、社会教育、企業内教育はもちろん、私たちの知識や価値観に影響を与えるメディア、若者文化、恋愛などでさえ重要な研究テーマとなります。また、情報機器や情報環境が目覚ましい発展を遂げるなか、私たちの教育・学習環境は急速に変化しており、学校現場でも教育のデジタル化、情報活用能力の育成（情報リテラシー教育）が推進されています。こうしたなか、教育文化専修は、2021年度から、旧・情報文化学専修のスタッフと協働し、次世代の情報社会に対応できる学びをめざす、新・教育文化専修をスタートさせました。教職をめざす学生はもちろん、情報通信分野をはじめとする民間企業、公務員、NPO、社会教育主事（社会教育士）、図書館司書、司書教諭・学校司書、大学院進学、海外留学など、多様な進路を希望する学生の幅広いニーズに応える教育と学びの機会を提供します。

先輩からのメッセージ

大学生だからこそ、教員と生徒双方の視点を実感しながら学ぶことができます。

山野井 達哉 3年次生

授業を受ける生徒の立場からだけでなく、教える側の教員や教える場としての学校などについても学べる専修です。私が所属しているゼミでは、「教員の働き方改革」について研究しています。日本政府は働き方改革の推進を掲げていますが、日本の教員の労働時間は世界で最長とも言われ、社会問題になっています。私たちは教育現場で働く先生方を対象にアンケート調査を行い、何が課題なのかを調査しました。そこから見えてきたのは教員が担う職務の多さや、時間の効率化に対する意識の差などです。現在、教育問題が取り上げられる場合に、教える側の環境を踏まえて論じられることは少ないといえます。現状の把握に基づいて将来を考えることが、日本の教育をより良くすることにつながると思います。教師をめざしている人にとっては、将来に対する視野が広がる環境だと思います。



専任スタッフ

- ▶赤尾勝己 教授 生涯学習論、社会教育、学習社会学
- ▶柴田一 教授 情報処理、データサイエンス、教育のデジタル化
- ▶多賀太 教授 教育社会学、ジェンダーと教育
- ▶田中潤一 教授 教育哲学、教育思想、道德教育
- ▶広瀬義徳 教授 教育制度学、教育行政学
- ▶村上泰子 教授 図書館情報学、学校図書館論、デジタルメディアと教育
- ▶本村康哲 教授 情報教育、教育工学、教育学習支援システム
- ▶山ノ内裕子 教授 教育人類学、異文化間教育論
- ▶若槻健 教授 市民性教育、人権教育
- ▶渡邊智山 教授 図書館情報学、情報リテラシー教育、公共図書館論

地理学・地域環境学 専修

土地と人をいつくしみ、フィールドに学ぶ。地域と環境を考える旅のプロフェッショナルへのゲートウェイ。



専修の内容

グローバル化のいろいろな課題が噴出してきている今日、環境や地域のリージョナルやローカルな問題を幅広い枠組みのなかで再考しようとするスリリングで楽しい学びの場が本専修です。人文地理学、地誌学、自然地理学の諸分野と、その隣接分野もとりこんだ実践的な学びも含まれます。いずれも、地球温暖化のような地球規模の環境問題を対象とすることもありますが、本専修では、主に日々の生活や私たちが暮らす風土や地域を対象にして、ミクروسケールやメソスケールの環境とその変容に関するさまざまな現象を分析・考察します。都市地理学、村落地理学、観光地理学、歴史地理学、地域環境システム論、地域文化論、地域生態論などの多彩な選択科目のほか、地域づくり論や地理情報システム（GIS）などの実践的科目もあり、未知の国内でのフィールドワークもたくさん経験できます。地域調査士、GIS学術士の資格が取得できます。

先輩からのメッセージ

地理学の視点を身につけると、街の見え方が変わります。

久野 拓馬 3年次生

高校の時から地理が好きで、迷わずこの専修を選びました。専門分野が異なる先生方から少人数で指導を受け、視野を広げながら自分の興味を掘り下げられるのが魅力です。また、年に数回フィールドワークがあり、自分の知っている街や知らない街を歩いて、普段とは異なる地理学の観点から見るのが本当に楽しいと感じます。先日は島根県の出雲地域に出かけ、交通・歴史・自然・観光の4つの観点から実習調査を行いました。私はコミュニティバスに乗って、乗客の属性や乗降量などを調査したのですが、小学生の通学手段として機能している面があるなど、事前に収集したデータでは見えてこなかったことがわかりました。図を理解することが主だった高校地理と違い、大学の地理学教室では現地に足を運び、目で見て、話を聞くことも大切だと実感しています。今後は卒業論文の作成に向けて、興味をもっている沖縄県の離島の資料収集を進めるつもりです。



専任スタッフ

- ▶野間晴雄 教授 農業・農村地理学、文化地理学、アジア、日本、環大西洋
- ▶黒木貴一 教授 自然地理学、地図学、日本、東南アジア
- ▶土屋純 教授 都市地理学、経済地理学、日本、南アジア
- ▶松井幸一 准教授 歴史地理学、文化地理学、日本、アジア

初等教育学 専修

現場に学び、教育のいまを知る。責任感と実践力を備えた、信頼される小学校教師をめざす。



専修の内容

初等教育学専修は、小学校教諭一種免許状を卒業と同時に取得することができる、小学校教師の養成をめざす専修です。関西大学文学部における総合人文学の知をバックグラウンドに、「教職リサーチ」など学校現場における体験的学習や実習、「教職の実践」、「教育政策論」、「学習・発達論（初等）」など教師になるために必要な知見を学ぶ教職科目が1年次より用意されています。2年次以降も「教育方法学（初等）」や各教科教育法など授業実践に必要な知識や技能を身につける科目を継続的に学び、教師としての資質をより高めていきます。今日、子どもをめぐるさまざまな問題のなかで、小学校教育に熱い視線が向けられています。初等教育学専修では、子どもへのあたたかみで真摯なまなざしと責任感をたやさず、優れた実践力を身につけ、子ども、保護者、社会から信頼される教師を育てていきます。なお、入学定員50名の内訳は、30名（一般入試選抜）が1年次から、20名（専修分属）が2年次から本専修に所属する想定です。ただし、2年次から分属できる人数は50名定員から実際の1年次入学者数を減じた人数とするため、毎年度異なります。

先輩からのメッセージ

実際に学校を訪ね、現職の教師から話を伺う中で、教師という仕事の全体像をイメージできます。

田中 織恵 2年次生

教師をめざす学生にとって、早期から教育現場を体験できるのが魅力です。1年次の春から吹田市内の小学校でフィールドワークを経験し、学校ボランティアにも参加したことから、児童一人ひとりの興味を知り、かける言葉を選ぶ大切さを学びました。また、「教職の実践」という授業では、教育委員会の方や指導主事の先生をお招きして、現在の初等教育における職務内容や課題をお聞きする機会もありました。全てを理解することは難しかったのですが、児童の保護者への対応や職員会議なども含め、教師という仕事の全体像を俯瞰的にイメージできるようになりました。上位年次の先輩方とグループワークを行う機会もあり、常に刺激をもらえる環境だと思います。



専修紹介

心理学 専修

思考・行動・感情を科学的にとらえ、人間の発達・芸術・文化を深く理解する。



専修の内容

本専修は、国内の他の多くの心理学系のコースとは異なり、従来の心理学の枠組みや、公認心理師、認定心理士などの資格制度にとらわれない、新しい心理学教育と研究の形をめざしています。人間や動物の思考・感情・行動についての最先端の学際的な動向にも目を向けつつ、文学部の特長を活かし、ことば、宗教、文化、アートといった人間が作り出す物もテーマとして取り上げ、ほかではなかなか学べない内容がたくさん詰まった魅力的なカリキュラムとなっています。

文学部の他専修との違いは、実験法、アンケート調査、インタビュー調査、行動観察法、フィールドワーク、会話や語りの分析、脳機能測定といった多様な手法を用いる点です。そうした方法を駆使しながら、自己理解や他者理解を深め、人間の成長や発達の多様性、人生の意味について掘り下げていきます。卒業生の多くは一般企業に就職しています。教員や公務員となり活躍している方や、心理学の専門性を生かした職業をめざして大学院に進学する方がいます。

専任スタッフ

- ▶石津智大 教授 芸術と感性についての脳と認知
- ▶加戸陽子 教授 神経発達症を伴う子どもへの支援
- ▶木戸彩恵 教授 文化と発達
- ▶串崎真志 教授 性格と個人差
- ▶菅村玄二 教授 からだの感覚やしぐさと感情の関係
- ▶比留間太白 教授 ことばとこころの関係
- ▶村上祐介 准教授 人生の意味とこころの教育

先輩からのメッセージ

心と体の関わりについて学び、自分の考えや行動も成長していると感じます。

多田 萌花 3年次生

心理学専修では、人間の思考・感情・行動について学びつつ、言葉、宗教、文化、アートといった文学部全体で扱うテーマについても心理学と掛け合わせて学ぶことができます。私が専攻して学んでいるのは、身体の動きと心の動きの関係を探る身体心理学という分野です。例えば、私たちは悲しいから泣くだけでなく、泣くことで悲しくなることもあると思いませんか。心が体に影響を与え、体のコンディションが心の状態を左右するということを、さまざまな心理実験を通して明らかにしています。私自身のテーマは、人に優しく、人のために行動することを促す技法について。実験的な介入研究を行い、データを分析して、研究を深めていくつもりです。大学で心理を学ぶようになって、周りの人の気持ちだけでなく、物事全てに対して深く考える力が身に付いたと感じています。



文化共生学 専修

対立、衝突から共生へ。文化の違いを認めながら、創造的に共生する道を探る。



専修の内容

本専修は〈異文化理解〉と〈共生〉をキーワードにして、さまざまな文化事象を横断的にかつフレキシブルに把握し、それを新しい切り口から教授することをめざすものです。〈共生〉によく似た言葉に「共存」がありますが、〈共生〉はたんなる「共存」ではなく、異文化の差異を主体的に認識しながら、〈創造的共生〉をも内包するものです。21世紀の世界は、独善的なナショナリズムや資本の論理、さらに排他的な宗教主義でもなく、多様な文化を容認し、たがいに切磋琢磨しながら、〈創造的共生〉をはかることがきわめて重要な課題となるでしょう。なぜならこれこそが、現代の多文化社会における衝突を回避し、未来への展望を切り拓くことを可能とする人間の叡智だからです。文化共生学専修の教育内容は、(1)異文化共生論、(2)比較文化論・文化表象論、(3)ジェンダー論、(4)マイノリティ論などです。こうして従来、文学部の専修が扱ってこなかった学問領域にも視点を拡大し、新しい分野を掘り起こして、転変激しい現代史に対応していきます。

専任スタッフ

- ▶澤井一彰 教授 オスマン帝国史、環境歴史学、比較食文化史研究
- ▶溝井裕一 教授 ヨーロッパ民間伝承、西洋文化史、人と動物の関係史
- ▶森貴史 教授 ドイツ文化論、ヨーロッパ紀行文学、サブカルチャー研究
- ▶青木敬 准教授 文化人類学、クレオール文化研究、異文化接触論

先輩からのメッセージ

自分の「当たり前」が通用しないテーマを、仲間と議論する魅力を感じてください。

藤井 莉子 2年次生

高校生の頃から異文化に興味があったので、さまざまな文化の成り立ちを知り、異文化を理解したいと思ってこの専修を選びました。現在は、絵本や映画などを題材に、さまざまな文化の歴史や背景を学んでいます。例えばアフリカのある地域の絵本「赤ずきんちゃん」には、青いスカーフを巻いてかごを頭にかけた少女が描かれています。自然環境などの違いによって、現在の文化や風習が異なっている部分を見るときも、歴史をさかのぼるとつながっている部分もあります。専修の仲間と議論しながら、新たな捉え方に気づくことが多く、それがこの専修の魅力だと感じます。ジェンダーやマイノリティ、エンターテインメントや食文化など、幅広い分野で文化の成立過程や文化間のつながりを学び、他の人と意見を交換しながら新しい視点を増やしていけることを日々楽しんでいます。



映像文化 専修

映像文化の歴史的発展、地域的な広がりを体感しつつ、映像を批判的に読み解く力を養う。



専修の内容

映像文化専修は、世界各国の映画の表象分析や文化的・歴史的背景の探求を行う映画研究を一方の軸に、メディア論・視覚文化論をもう一方の軸に据えた学びを提供しています。研究対象には、さまざまなジャンルや時代・地域の映画だけでなく、テレビ放送やそのコンテンツ、インターネットやソーシャルメディア上の動画、さらには現代美術における映像表現など、あらゆる映像が含まれます。映像文化専修では、このように多様な映像文化について専門的な知識を幅広い観点から修得できるような科目を提供しています。4年間の学びを通じて、専門的かつ複眼的な見地から映像を批判的に読み解く能力を磨くことが、本専修の最終的な目標です。

先輩からのメッセージ

自分の興味のある事象を思う存分探究できる環境です。

藤田 彩菜 3年次生

古典的ハリウッド映画から現代の映画、さらにはメディア哲学や現代アートなど、幅広いジャンルを研究対象にすることができます。映像作品を作る側ではなく、文化の1つとして解釈するというアプローチに魅力を感じ、この専修を選びました。私は入学時より抱いていた「なぜ人は映画館で映画を観るのだろうか」という疑問を追究しています。さまざまなサブスクリプションの動画配信サービスが浸透した現在、わざわざ高いお金を払って映画館に足を運ぶ理由は何でしょうか。コロナ禍で経営危機に陥る映画館も多いのですが、一方でミニシアターを支援する基金に3万人が寄付を行うなど、社会的な重要性が再評価される動きもあります。今後は卒業論文にまとめた上で大学院に進学し、今後の映画館の在り方について考察を深めたいと考えています。



専任スタッフ

- ▶門林岳史 教授 映像メディア研究
- ▶笹川慶子 教授 アメリカと日本の映像文化研究
- ▶菅原慶乃 教授 中国語圏の映像文化研究
- ▶堀調之 教授 フランスを中心とするヨーロッパの映像文化研究
- ▶馬定延 准教授 現代美術と映像メディア研究

アジア文化 専修

アジアの伝統と現代、その豊富で多彩なテーマに触れ、アジア文化をトータルに理解する。



専修の内容

「21世紀はアジアの時代」といわれています。アジアの経済的発展が進むにつれ、日本との関係はますます緊密になっています。しかし日本では、身近なアジア地域の文化については、欧米の文化に比べてあまり知られていません。アジア文化専修では「伝統文化」はもちろん、「現代のアジア」という視点からもアジア諸国の文化をトータルに理解する国際人の育成をめざします。

【アジア文化コース】では文献資料のみにとどまらず、衣・食・住から民衆文化まで幅広い文化事象を学習の対象とし、韓国・朝鮮／東南アジア／中央・西アジア／日本などの地域につき知識を積み重ねていきます。【中国言語文化コース】では急速に存在感を増す中国につき、中国語の習得を通して中国語圏文化の学びを深め、言語／思想／文学／異文化接触などさまざまな分野の研究に取り組みます。幅広い専門分野をもつ教員スタッフが皆さんの探求心に応えます。

先輩からのメッセージ

文化的に近いと思われがちなアジアにも、知らないことがたくさんあります。

稲田 真友子 3年次生

1年次にインド映画に関する授業を受けたことがきっかけで、アジアについてもっと知りたいと思い、この専修を選択しました。高校生の頃に抱いていたアジアのイメージは、韓国ドラマや中華料理など華々しい物でしたが、専修の授業を受ける中で、文化を研究するには貧困や政治的な駆け引きなどの要因も考える必要があると感じるようになりました。例えば台湾では1970年代の半ば以降、東南アジアの女性と台湾人男性の国際結婚が急増しました。その背景には、台湾の男性の割合が女性よりもかなり多くなって、結婚できない男性が増えたことから、東南アジアから女性を連れてくるというケースが増えたことがあります。国際結婚も当人同士のことと考えていましたが、政治的な側面も影響していることがわかりました。今後は、韓国の国際結婚についても研究を進めようと思っています。



専任スタッフ

- ▶吾妻重二 教授 東アジアの思想と文化
- ▶篠原啓方 教授 朝鮮古代史・韓国現代文化
- ▶二階堂善弘 教授 アジア諸地域の宗教文化
- ▶藤田高夫 教授 東アジアの文化交渉学・中国古代史
- ▶吉川和希 准教授 ベトナムの歴史と文化
- ▶池田智恵 教授 中国の近現代文学
- ▶石崎博志 教授 中国語学・東アジアの言語史
- ▶長谷部剛 教授 中国の古典文学と詩歌
- ▶韓淑婷 准教授 日中文化交流史・思想史

キャリアデザイン

自分の将来に対して明確な目標意識をもつことで、大学生活の4年間はより有意義なものとなります。その目標のひとつとして、在学中の免許・資格の取得があげられます。文学部では各専修の多彩な学びに対応する、さまざまな免許・資格を取得することができます。また文学部の就職状況は良好で、社会から高く評価されているといえます。

免許・資格

□ 教員

どの専修に所属していても、右の中・高いずれの教育職員免許も取得することができます。さらに初等教育学専修に所属すると、小学校教諭(一種)免許を取得することができます。また、通常の教職課程とは別に、教育現場で就業体験を行う「学校インターンシップ・プログラム」を実施しており、「教員」という仕事の全体像を知る貴重な機会となっています。

教 科	
英 語	公 民 △
国 語	フランス語
社 会 □	ドイツ語
地理歴史 △	中国語
小学校教諭(一種) ○	

※△印の教科は高一種のみ、□印の教科は中一種のみです。○印の教科は初等教育学専修を修了した人のみです。

文学部における小学校教員採用試験の合格状況一覧

採用年度	受験者数	合格者数	合格率
2023	28	20	71%
2022	33	23	70%
2021	36	20	56%
2020	35	19	54%
2019	28	18	64%

□ 司書

□ 社会教育主事(任用資格)

□ 司書教諭

□ 地域調査士(地理学・地域環境学専修のみ)

□ 学校司書

□ GIS学術士(地理学・地域環境学専修のみ)

□ 学芸員

卒業生インタビュー

法人事務職員



国立極地研究所

哲学倫理学専修
木下 千恵さん
(2013年3月卒業)

Q1 どんな仕事内容?

A 南極と北極での観測・研究の中核機関である研究所に所属し、南極観測の支援をしています。観測隊が南極に行くための事前準備や、南極での活動を日本からサポートすることを通じ、地球環境の未来を探る研究をわずかでもお手伝いできることがやりがいです。

Q2 この仕事を選んだきっかけは?

A 在学中に物事を突き詰めて考えることや未知と出会うこと＝研究にとっても魅力を感じました。同時に、研究を行うためにはその環境が整っている必要があると知り、研究支援の仕事をしたと考え、研究機関の事務職を志望するようになりました。

Q3 在学中の学びが今どう生きている?

A 哲学を専攻し、「当たり前」や「常識」を疑い自分自身で考えてみることで、さまざまな思想や物事の捉え方があることを学びました。正解が見えない中で判断しなければならぬときに、在学中に培った物事の本質を捉える力が役立っていると感じます。

中学校教員



長崎県川棚町
立川棚中学校

日本史・文化遺産学専修
山下 翼さん
(2022年3月卒業)

Q1 どんな仕事内容?

A 子どもたちと日々関わり、笑い合ったり叱ったりしながら信頼関係を築いていく中で、ふとした瞬間に成長した姿を見ることがあります。子どもと根気よく向き合い、成長と一緒に喜ぶことができるのが教師という職業の魅力、やりがいであると感じています。

Q2 この仕事を選んだきっかけは?

A 小学生の頃から、将来は教師になって働きたいという思いがありました。また社会科が好きで、人に勉強を教えるのが好きであること、人と関わって楽しく話することが好きなことなどを総合的に考え、この職種を選びました。

Q3 在学中の学びが今どう生きている?

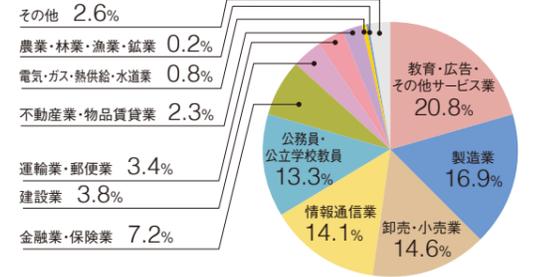
A 教職および社会科に関する知識を多く学ぶことができました。また卒業論文の執筆においては、テーマの選定から調査内容の検討、研究の進行管理を考え、実行しました。この経験は教職だけに限らず、社会人として必要なスキルであると深く実感しています。

就職

文学部生の就職率(2022年度)

98.4%

業種別



就職先の一例(2023年3月卒業生実績)

教育・広告・その他サービス業	エン・ジャパン、大阪府結核予防会、JTB、地域医療機能推進機構、帝国データバンク、西日本高速道路(NEXCO西日本)、日本入試センター、阪急交通社、マイナビ など
製造業	旭化成ファーマ、ADEKA、イトーキ、エレコム、オークマ、グローリー、SUMCO、沢井製薬、SCREENホールディングス、スズキ、住友化学、住友ゴム工業、住友電気工業、積水化学工業、タイガー魔法瓶、ダイセル、ダイハツ工業、椿本チエイン、テーブルマーク、テルモ、東京精密、東芝エレベータ、東リ、TOTO、ニデックドライブテクノロジー、日本化薬、パナソニックグループ、浜松ホトニクス、日立造船、富士通ゼネラル、プリマハム、村田機械、村田製作所、山崎製パン など
卸売業・小売業	イオンリテール、稲畑産業、岩谷産業、カインズ、兼松、高島屋、小泉成器、シャープマーケティングジャパン、生活協同組合コープこうべ、ダイワボウ情報システム、PALTAC、ミキハウスグループ、リコージャパン、良品計画、ローソン など
情報通信業	インテック、SCSK、NECソリューションイノベータ、NTT西日本ビジネスフロント、キヤノンITソリューションズ、ぎょうせい、JCOM、スポーツニッポン新聞社、SMIセイ情報システム、中日新聞社、日立システムズ、富士ソフト、富士通Japan、吉本興業ホールディングス、リクルート など
公務員・公立学校教員	国家公務員一般職、国税専門官、労働基準監督官、京都府職員、大阪府職員、兵庫県職員、奈良県職員、和歌山県職員、大阪市職員、姫路市職員、宮城県教員、愛知県教員、三重県教員、京都市教員、大阪府教員、大阪市教員、大阪府豊能地区教員、堺市教員、兵庫県教員、神戸市教員、奈良県教員、和歌山県教員、岡山県教員、広島県教員、愛媛県教員、福岡市教員、長崎県教員、京都府警察官、大阪府警察官、兵庫県警察官 など
金融業・保険業	アフラック生命保険、尼崎信用金庫、岡三証券、オリックス、関西みらい銀行、かんぽ生命保険、紀陽銀行、京都銀行、近畿労働金庫、滋賀銀行、損害保険ジャパン、東京海上日動火災保険、日本生命保険、兵庫県信用保証協会、みずほ証券、みずほフィナンシャルグループ、明治安田生命保険、ゆうちょ銀行 など
建設業	一条工務店、かんでんエンジニアリング、鴻池組、大和ハウス工業、高松建設、パナソニック ホームズ など
運輸業・郵便業	アサヒロジ、ANAエアポートサービス、ANA大阪空港、佐川急便、JR東日本ステーションサービス、日本通運、日本航空(JAL) など
不動産業・物品賃貸業	NTT・TCリース、学生情報センター、近鉄不動産、三井不動産リアルティ など
電気・ガス・熱供給・水道業	大阪ガス、関西電力、東京電力ホールディングス など
その他	宇宙航空研究開発機構(JAXA)、国立病院機構、全国健康保険協会、日本年金機構 など

大学院への進学

学部での研究を進展させて研究者をめざすだけでなく、教職や学芸員などの専門の能力をレベルアップさせたい人の中には、大学院に進学する道があります。文学部からは文学研究科、東アジア文化研究科に内部進学入試を受験できます。大学院は、博士課程前期課程(2年または3年)と博士課程後期課程(3年)からなり、文学研究科は総合人文学専攻に前期課程13専修・後期課程8専修*、東アジア文化研究科は前期・後期課程とも文化交渉学専攻のもとに3つの領域を設置しています。修了生は、研究者、教員や学芸員等として活躍しています。

*2024年度より映像文化専修が加わり9専修

大学院修了後の就職先 | 国家公務員一般職、神戸市教育委員会、神戸市立博物館、奈良文化財研究所 など

Q1 大学院に進学した理由は?

A 将来は教員になると考え、学部で中・高の教員免許を取得しました。さらに小学校教員免許の取得をめざしつつ、現代の児童生徒の育成について研究を深めたいと考え、大学院に進学することを決めました。

Q2 どんな研究に取り組んでいる?

A 海外にルーツをもつ児童に対して、どのような支援がされているのかを調査しています。関係者へのインタビューを通して、外国人の保護者との連携に課題が生まれやすいと考察。教育現場への理解が深まりました。



文学研究科 教育学専修
小泉 朋佳
博士課程前期課程2年次生

※学生の年次は取材時のものです。